

岡崎ホスピスケアを考える会通信

2007 年 11 月

37 号

事務局：橋詰 0564-53-3100 小野 0564-24-8518

今年度テーマ「どうなるの？岡崎の医療」

私たちが願うホスピスケア

今年のテーマ（どうなるの？岡崎の医療）を話すと「方針が変わったの？」と新聞社や医師から聞かれます。「緩和ケア病棟は、もっと必要だと運動しないのか」「緩和ケア病棟のその後を市民に伝えなければ・・・」と。私たちの活動を知っていつも心にかけてくださっている方たちだからこそ、うれしい言葉です。

十年前、会の名称を何にし、何を目的にした会にするかを話しあったことを懐かしく思い出しました。

「ホスピスⅡがんの終末期医療」という一般的な印象があります。

「ホスピス」の原点は中世ヨーロッパで修道士たちが巡礼に来る人々に宿を与え、食事を配り、看病し、死を看取った。すべて心からの「温かいもてなし」だったのです。

それがホスピスケアだと知り、わたしたちもそのホスピスケアを大切にしようと決めました。

・「温かいもてなしを受けたい！」（医療者との勉強会）
・「温かいもてなしがしたい！」（ボランティア）

・「病气や死を受け入れて今を生きたい！」（自分のために）
この三つのホスピスケアをそれぞれの立場（患者・家族・遺族・医療者・宗教家・ボランティア）で支えあいたい、そして「いい人生だったね」と互いに言いあいたい、そんな仲間でいたいと「ホスピスケアを考える会」を発足しました。

今年度は認知症や三大疾患になった時、どのような所でどのような人の力をかりて過ごせるかを勉強しましたが、がんの終末期だけでなく、どんな病気になるっても、どこにいても、誰と住んでいても、誰とも住んでいなくても、「ホスピスケア」は必要です。

誰もが「いい人生だった」に値する命だからです。

（橋詰 清子）

私が受けた
ホスピスケア

私が自身にできる
ホスピスケア

私が他の人にできる
ホスピスケア

岡崎ホスピスケアを考える会

“勉強会”の報告

「どうなるの？岡崎の医療Ⅲ」11月9日（金） 竜美丘会館

【介護保険を使って・できること】

「病気が治らないとしても痛みだけは何とかしてほしいよね。」「最期は家で死にたいね」・・・10年程前、病院に差し上げる雑巾を縫っていた時のことばです。

当時は病院で亡くなる人が90%以上でした。医療の進歩はめざましく、痛みのコントロールも「緩和ケア科」ができるような時代になりました。一方で国の方針は医療費を削減するために療養病床を減らし介護保険サービスを使って最期まで在宅・施設で生活を送れるようにと変わってきました。

今回【介護保険を使って・できること】として

1. 使える人（対象者）：65歳以上（40歳以上で16の特定疾病患者）
2. 使える場所：自宅 施設（介護老人保健施設 介護老人福祉施設 有料老人ホーム ケアハウス 高齢者専用賃貸住宅 グループホーム 療養病床）
3. 使い方：自分で選べること（自分の介護度にあわせたサービス）

を岡崎市介護サービス 杉山直人さんのアドバイスを受けながら勉強しました。

この「選べること」が限られている中で、本人（私）が何を優先（大切にしていること）したいのか、自分の価値観や家族の想いを日常の中で話し合っておくことが大切だと思います。それをふまえて最期の場所が「自宅？」「施設？」「高齢者専用賃貸住宅？」・・・。

「いい人生だったね」といつでも言えるように「私のたまたま箱」をもう一度開いて考えてみませんか。

【感想】

- ・今後、後期高齢者（75歳以上）や独り暮らしの人口は増すと予想されます。今回の勉強会はたいへん有意義でした。介護保険の内容や利用の仕方はメディア等でも少しずつ紹介されてはきましたが、まだ身近なものにはなっていないような気がします。今後ともこのような勉強会が必要になってくるのではないのでしょうか。快適な介護、納得できる最後を迎える場所が金次第ということも見えてきて少しさみしい気もしました。
- ・「まず困ったら地域包括支援センターに連絡する」最初の窓口がみつかりました。まずはそこから！ありがとうございました。



“手縫い”の報告

愛知病院・市民病院・国際病院・施設へ雑巾や依頼された品を手作りしてお届けしています。

- ・市民病院から依頼のコールドホットパック入れ20枚 愛知病院のドレーンカバー30枚を納めました。
11月22日から綿を糸で巻きつけ芯にして作る3メートルの市民病院抑制帯（綿入れひも）作りを始めます。
一人でも多くのお手伝いがあったら助かります。
- ・愛知病院の手術室で使っている抑制帯がどのように使われているかを、看護師さんがモデルになった写真を使って教えてくださいました。手術中患者さんの腕が機械に触れないようにと優しい配慮がされていることを知りました。用途を知った上で看護師さんと相談しあいながらより良い物を作成しようと思います。

◆お知らせ

12月第4木曜日の手縫いは**お休み**です（13:00～16:00カトリック岡崎教会）

12月第2火曜日（11日）は平常どおり行います（10:00～12:00愛知病院緩和ケア病棟ボランティア室）

“つどい”の報告

患者・家族・遺族の会員の集まりです。

◆お知らせ

元愛知大学心理学教授木村易先生によるフォーカシング（自分で自分を癒す方法）を1泊2日でいたします。

日時：1月10日（木）10:00～11日（金）12:00

※通いも可（詳細は橋詰まで）

会場：アイプラザ岡崎

費用：宿泊代（約2000円）＋食事代（自由）

定員：8名（会員に限る）

申し込み方法：12月10日（月）9:00 橋詰宅（0564-53-3100）に電話先着順

※12月はアイプラザ岡崎が改装工事に入るため**お休み**です

“緩和ケア病棟ボランティア”の報告

ティーサービス・季節の模様替え・アロマ・楽器演奏

◆ティーサービス（毎週金曜日 13:30～16:30）

「患者さんとその家族の方々が私たちボランティアを受け入れてくださる。そのもてなしに応えていきましょー」という最初のあいさつから始まるティーサービス。

たしかに相手が受け入れてくださるからこそできること。人と人のかかわりの原点にふれた思いでした。

あたたかなもてなしの中で活動できる喜び、一回一回の出逢いの大切さを学び、一つひとつの関わりを通してたくさんの気づきをいただいております。

◆季節の模様替え



夏が終わるころには紅葉の先取りを思わせる絵や飾りつけをしましたもうすぐクリスマスです。

昨年皆様からの会費で愛知病院の緩和ケア病棟にプレゼントした大きなクリスマスツリーを11月23日に飾る予定です。

◆アロマオイルマッサージ

がんの父を自宅で看取った体験からマッサージが心と体を癒すのを感じていました。患者さんの限りある時間を共有させてもらうので、少しでもリラックスできて気持ちいいと感じてもらえるように心からのおもてなしを心掛けたいと思っています。患者さんに「本当にここは至れり尽くせりだね」「ああ気持ちいい」「手を握らせて、やっぱり温かい」・・・たくさんの温かい言葉をいただき反対に私が癒されています。帰り道、私の心はいつも優しく暖かいものでいっぱいになります。

天国の父の「がんばってるね」という声が聞こえてくる気がするのです。

気負わず続けられたらいいなと思っています。



練習風景

◆楽器演奏

ティーサービスが始まる2時30分、月一度ハーブの音がラウンジから聞こえます。病室も穏やかな音色に包まれます。ラウンジには、見舞い客と一緒にコーヒーを飲みながら楽しむ方も見かけます。

<お願い>

ティーサービス・アロマオイルマッサージ・楽器演奏など緩和ケア病棟ボランティアに協力してくださる方はご連絡ください。【連絡先】橋詰 0564-53-3100 小野 0564-24-8518